

JA柏崎自己改革工程表（平成28年度振り返り）

3年後の成果目標

- ①担い手経営体の面積シェア 60%
- ②正組合員戸数 8,000戸キープ
- ③販売品取扱高（合計額）3%アップ（33億円）
- ④園芸の販売品取扱高 10%アップ（1.3億円）
園芸作付面積 10%アップ（40ha）
- ⑤食農教育活動参加成人人数 500名

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程（実施具体策・到達目標）		
		平成27年度（基準年）	平成28年度（1年目）	平成28年度振り返り
地域農業の担い手の育成・支援	担い手経営体を育成し、6割の生産をカバーする。	○集落営農の機運 ○世代交代の進展	○地域営農コーディネーター配置、集落営農誘導 ○新規就農支援メニュー、体制の検討	OTAC担当4名による、担い手経営体への育成支援 資金融資による上期農業融資67件、195,198千円 ○新規就農の生産者へ青年就農給付金を活用するための相談面接を行っている。(21名)
	評価指標： 担い手経営体の面積シェア	50%	目標：55% (実績：)	目標：55% (28年実績：59.5%)
	担い手経営体に対するJAのTAC活動を強化し、所得向上の支援をする。	○専任職員（TAC）4名が提案活動	○「TAC農業所得20%アップ2020」の取り組み（5年後所得20%アップ）	○上期は担当4名が単収の少ない生産者をリストアップし、収量向上を図り所得確保の相談を行った。(各担当3名)
生涯現役・一生農業運動を展開し、多様な担い手を確保する。	○年度末まで運動具 体策を決定	○定年帰農者向け畑作講習会開講	○定年帰農者向け畑作講習会 ○JA全体で正組合員の減少対策検討する	
評価指標： 正組合員戸数	8,354戸	目標：8,200戸以上 (実績：)	目標：8,200戸以上 (28年実績：7,846戸)	

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程（実施具体策・到達目標）		
		平成27年度（基準年）	平成28年度（1年目）	平成28年度振り返り
園芸生産の拡大	園芸重点8品目の生産拡大を40haを達成する。	○園芸重点8品目 16ha	○施設・機械を整備し貸付、面積拡大 ○大規模農家を中心に推進	○玉ねぎ乾燥調整機・枝豆調整機・予冷庫を導入 玉ねぎについては定植・収穫機械を貸出（収穫4ha、定植6ha） 乾燥調整については100t処理 枝豆は調整荷受け量で9t処理 予冷庫は玉ねぎ100t出荷内10t予冷庫で保管し長期出荷（2月中旬） ○大規模農家、生産法人を中心に作付け普及推進
	評価指標： 重点品目作付面積	16.3ha	目標：28ha (実績：)	目標：28ha (28年実績：21.9ha)
食農教育の推進を目指し学校給食供給率の拡大	○H27 25品目 21t出荷 供給率52.8%	○農林県単により予冷庫を整備し、玉ねぎ・馬鈴薯・人参を中心に拡大	学校給食納入 30品目 26t出荷（玉ねぎ出荷増） 供給率 51% 天候不順により秋野菜減	
	評価指標： 供給率	53%	70%	目標：70% (28年実績：51%)

園芸生産の拡大	農産物直売所を生産現役・一生農業運動の拠点と位置づけ、地場農産物の売上げを2割アップする。	○冬～春期の品不足 ○午後の集客不足 ○生産者と消費者の交流不足	○ハウス栽培の推奨 ○集荷便の利用拡大 ○地場産惣菜加工品 ○試食、対面販売強化	・28年愛菜館 地場産農産物売上 地場野菜販売 計画 86,040千円 101.8% 地場野菜販売 実績 87,588千円 100.9% 前年同期 86,777千円 ・利用組合員へのJA育苗ハウスの貸付け検討 ・イベント実施 本年開催日数 47日 販売金額 59,991千円 前年開催日数 46日 販売金額 56,019千円
	評価指標： 直売所販売高	1億円	目標：1億200万円 (実績：)	目標：1億200万円 (28年実績：1億1,629万円) 地場野菜・加工品・工芸品

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程（実施具体策・到達目標）		
		平成27年度（基準年）	平成28年度（1年目）	平成28年度振り返り
米の品質向上と多様な品揃え	中干しによる確実な生育抑制を図りスリムな稲づくりを目指し1等米比率の高位安定化。	○㎡当りの籾数が多く品質が気象に左右されやすい	○田植え後30日までの確実な中干し指導を図る。(指導会・緊急案内等)	○中干し指導会 73会場 562名参加 ○穂肥指導会 96会場 634名参加 緊急案内 穂肥2回
	評価指標： 1等米比率	88%	目標：95%以上 (実績：)	目標：95%以上 (28年実績：86.1%)
	土づくりによる登熟後半までの稲体活力維持。	○年々秋すき込み率が減少している。気象変動に弱い	○土壌分析を行い分析結果を活かした指導 ○土壌分析の実施	土壌分析は354ヶ所調査 10月上旬に土づくり指導会2会場開催 (中田倉庫・刈羽支店)
評価指標： 秋すき込み率	18%	目標：20% (実績：)	目標：20% (28年実績：26.4%)	
差別化商品としての「こだわり米」の取扱拡大。	早期米 50ha4,000俵 7割減減 12ha1,028俵 あきだわら 15ha1,196俵	○生産者との協議と全農との調整等	早期越路 55.4ha 4,359.1俵 7割減減 15.4ha 1,163.5俵 あきだわら 36.1ha 3,483.5俵	
評価指標： こだわり米取扱量	6,224俵	目標：8,600俵 (実績：)	目標：8,600俵 (28年実績：9,006.1俵)	

成果目標実現に向けた重点施策と3年後の目指す姿		年次別工程（実施具体策・到達目標）		
		平成27年度（基準年）	平成28年度（1年目）	平成28年度振り返り
食農教育を核とした地域の活性化	健康への関心が高いことから好評のウォーキングをJAの取り組みとして拡充。	○指導課が女性部で開催	○女性部を中心とした、地域住民の参加促進	○女性部支部で独自ウォーキング開催 4会場 ○下期にJA柏崎秋の味覚満喫ウォーキング開催 11月13日 (287名参加)
	評価指標： 上記活動参加者数	各支部女性部で開催	目標：300名 (実績：)	目標：300名 (28年実績：324名)
	小学5年生の米づくり体験の支援を充実させる。	○田植え、稲刈り体験のみ	○学校・JA青年部との調整	田植4か所指導（高柳・鯖石・北条・半田） 稲刈り指導（高柳・鯖石） 収穫祭（鯖石・半田）
地場産品を使った料理講習・食農研修の実施等、食農教育を通じた地域住民の健康増進と絆を深める取り組み。	○野菜ソムリエと食育ソムリエの能力を活かしていない状態	○ソムリエによる地場産品を使った料理講習や食農教育の実施 ○パン作りそば打ち等体験工房の実施	○野菜ソムリエ 3会場（愛菜館・刈羽・西山） ○食育ソムリエ 1会場 2回実施 ○月1回の実施を行いました。参加者が多く、毎月2回に分けての実施 ○イベントでは、利用組合員が試食品を持参し作り方のレクチャーをして購買者との親交を深めた。	
評価指標： 上記活動取り組み回数	年3回程度	目標：四半期に1回 (実績：)	目標：四半期に1回 (28年実績：12回)	